

かり つかい づき いせものがたり  
狩の使 1 : おぼろ月 (『伊勢物語』)

『伊勢物語』は平安時代前期にその原型が成立した歌物語です。歌物語は、  
わか ふく みじか ものがたり あつ いせものがたり みじか ものがたり  
和歌を含む短い物語を集めたものです。『伊勢物語』は 125 の短い物語で  
こうせい いせものがたり なか おお ものがたり しゅじんこう ありわらのなりひら  
構成されています。『伊勢物語』の中の多くの物語の主人公は在原業平  
じつざい じんぶつ なりひら へいぜいてんのう まご なだか かじん  
(825-893) という実在の人物です。業平は平城天皇の孫にあたり、名高い歌人  
でした。また、『日本三代実録』に業平を評して「体貌閑麗」とあるように美男  
こい うわさ た し  
で、恋の噂が絶えなかったこともよく知られています。

テキストの「狩の使」は『伊勢物語』第69段の物語で、男(業平)と伊勢  
さいぐう こい えが いせじんぐう かみ ほうし やくしよく こうぞく  
の斎宮との恋を描いています。斎宮は伊勢神宮の神に奉仕する役職で、皇族の  
みこん じよせい えら どうぜん れんあい きん  
未婚の女性が選ばれます。当然、恋愛は禁じられています。しかし、狩の使と  
いせ くに おとず おとこ こころ せわ さいぐう こい  
して伊勢の国を訪れた男は、心をこめて世話をしてくれる斎宮に恋をしてし  
まいます。そして、こらえきれずに「あはむ」(会いましょう)と言ってしま  
ます。「あふ」という言葉には、男女の関係を持つという意味もありますので、  
これは思い切った誘いの言葉なのです。女(斎宮)のほうも、その気がないわ  
けでもないのですが、人目が多いのでなかなか会うことができません。おぼろ月  
ひとめ おお あ  
の出ている夜、何が起るのでしょうか。

『伊勢物語』という作品名の由来については、様々な説がありますが、伊勢の  
いせものがたり さくひんめい ゆらい さまざま せつ いせ  
国を舞台とするこの「狩の使」の段から来ているという説が有力です。この段  
は『伊勢物語』の代表的な段の一つであると言えます。

ほんぶん しゅってん  
本文の 出典 :

かたぎりよういち ふくいていすけ たかはししょうじ しみずよしこ こうちゆう やく たけとりものがたり いせものがたり  
片桐洋一・福井貞助・高橋正治・清水好子 校注／訳『竹取物語 伊勢物語』  
やまものがたり へいちゆうものがたり しんべんにほんこてんぶんがくぜんしゅう しょうがくかん ねん  
大和物語 平中物語 (新編日本古典文学全集12) 小学館、1994年